河内鋳物師の里・
大阪府松原市の鋳造関連遺跡

―松原市教育委員会の調査を中心に―

松原市教育委員会　樫木　規秀

目次

はじめに
１．松原市の位置と地形
２．松原市域の鋳造関連遺跡
３．丹南遺跡（E8-3-24）発掘調査概要
４．丹南遺跡（E9-2-35）発掘調査概要
５．立部遺跡（F8-3-5）発掘調査概要
６．まとめ

１－１．松原市の位置

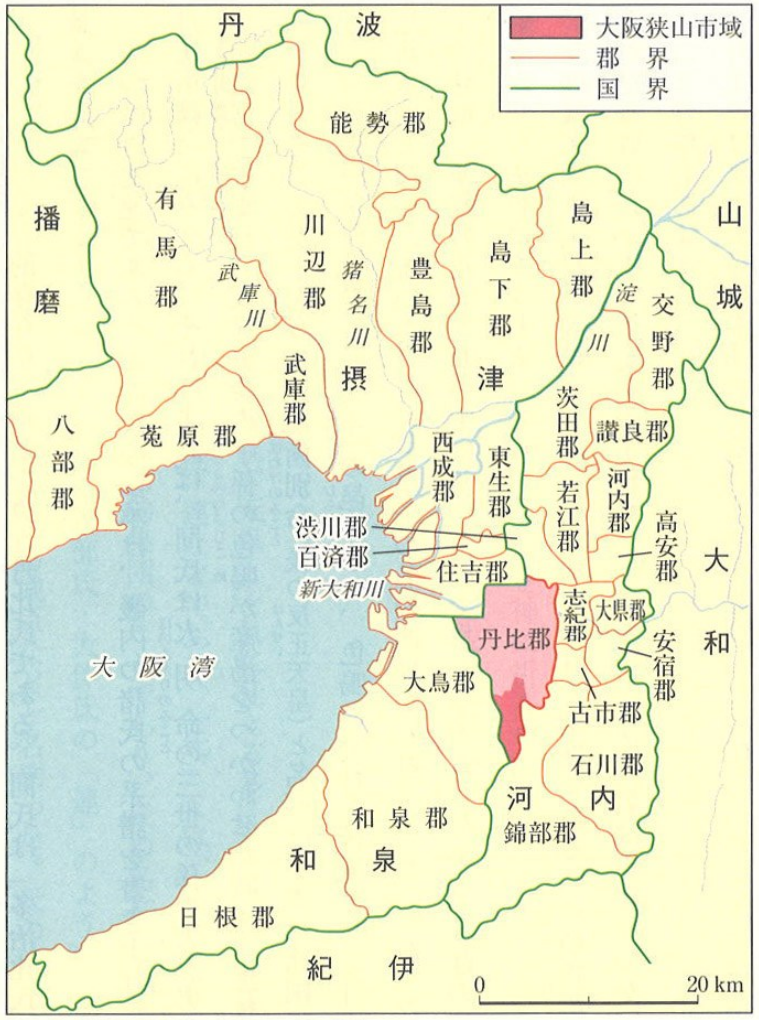
・大阪府の真ん中付近。

・律令制下では河内国丹比郡に属す。

・丹比郡は11世紀後半までに、丹北・丹南・八上郡に分割。

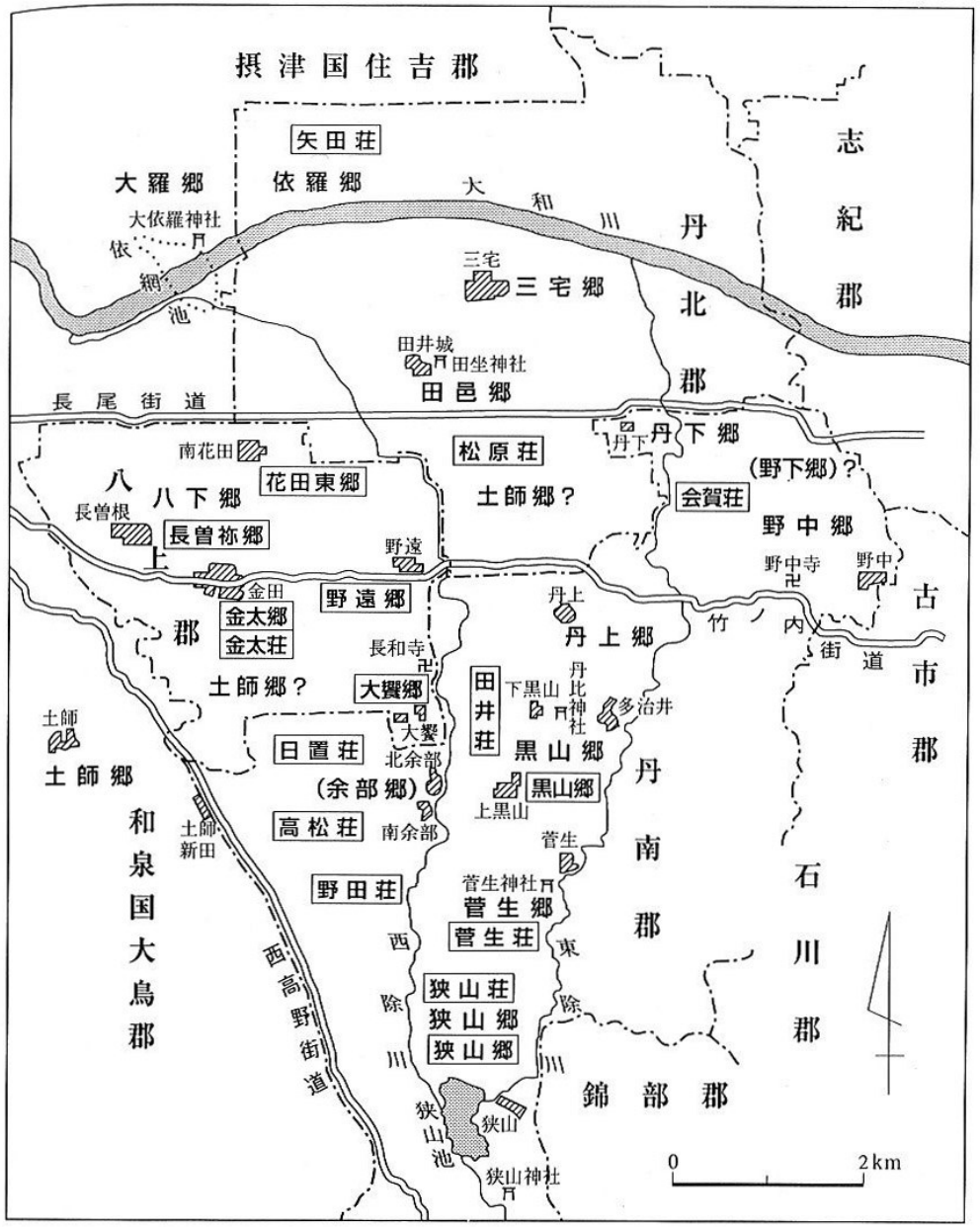
・松原市域は大半が丹北郡で、一部が丹南郡・八上郡域に属す。

丹比郡、丹北・丹南・八上郡



※『美原町史 第1巻』220頁図64より作成。

『大阪狭山市史第一巻』より引用

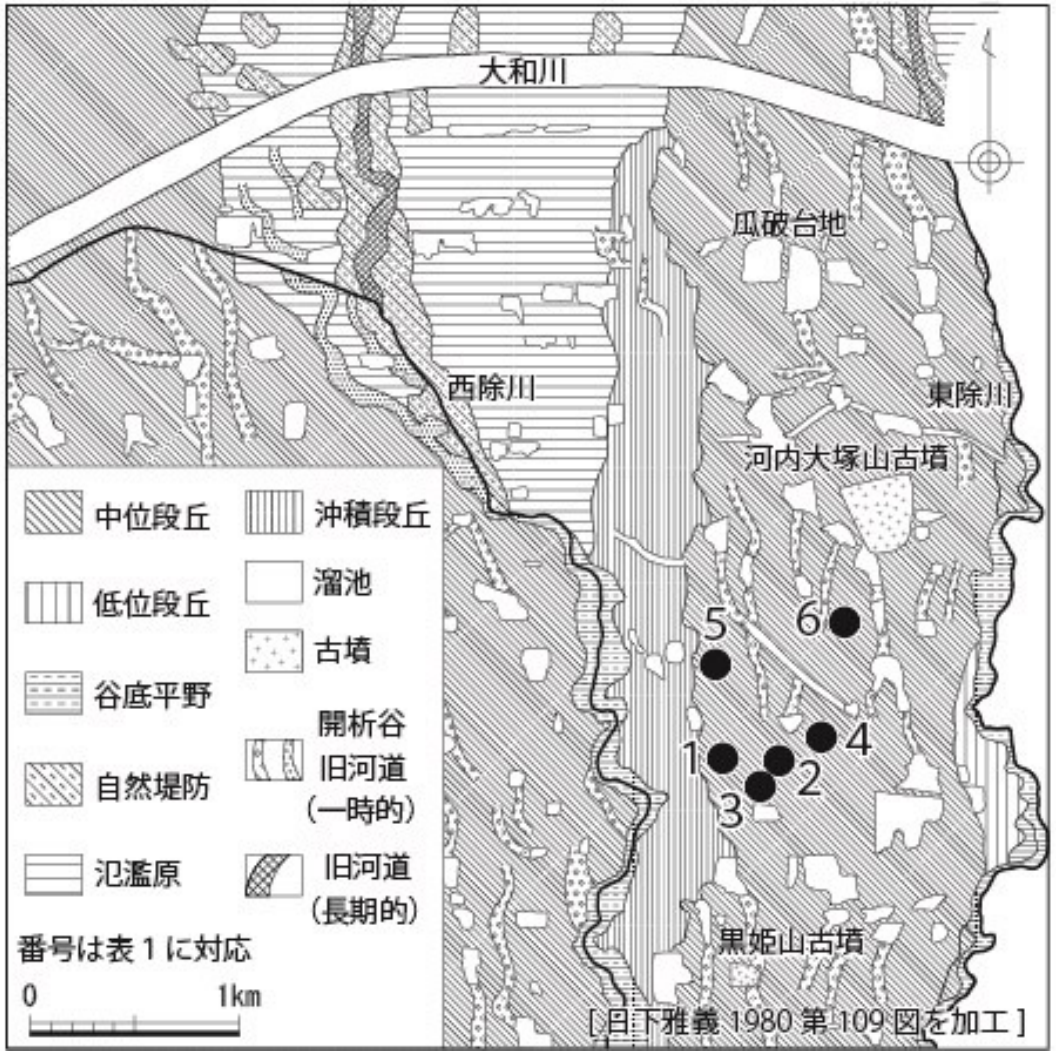


『美原町史第一巻』より引用

１－２．松原市の地形

・東西に台地があり、その間に沖積地が広がる。

・市内の主要河川は、大和川・西除川・東除川。



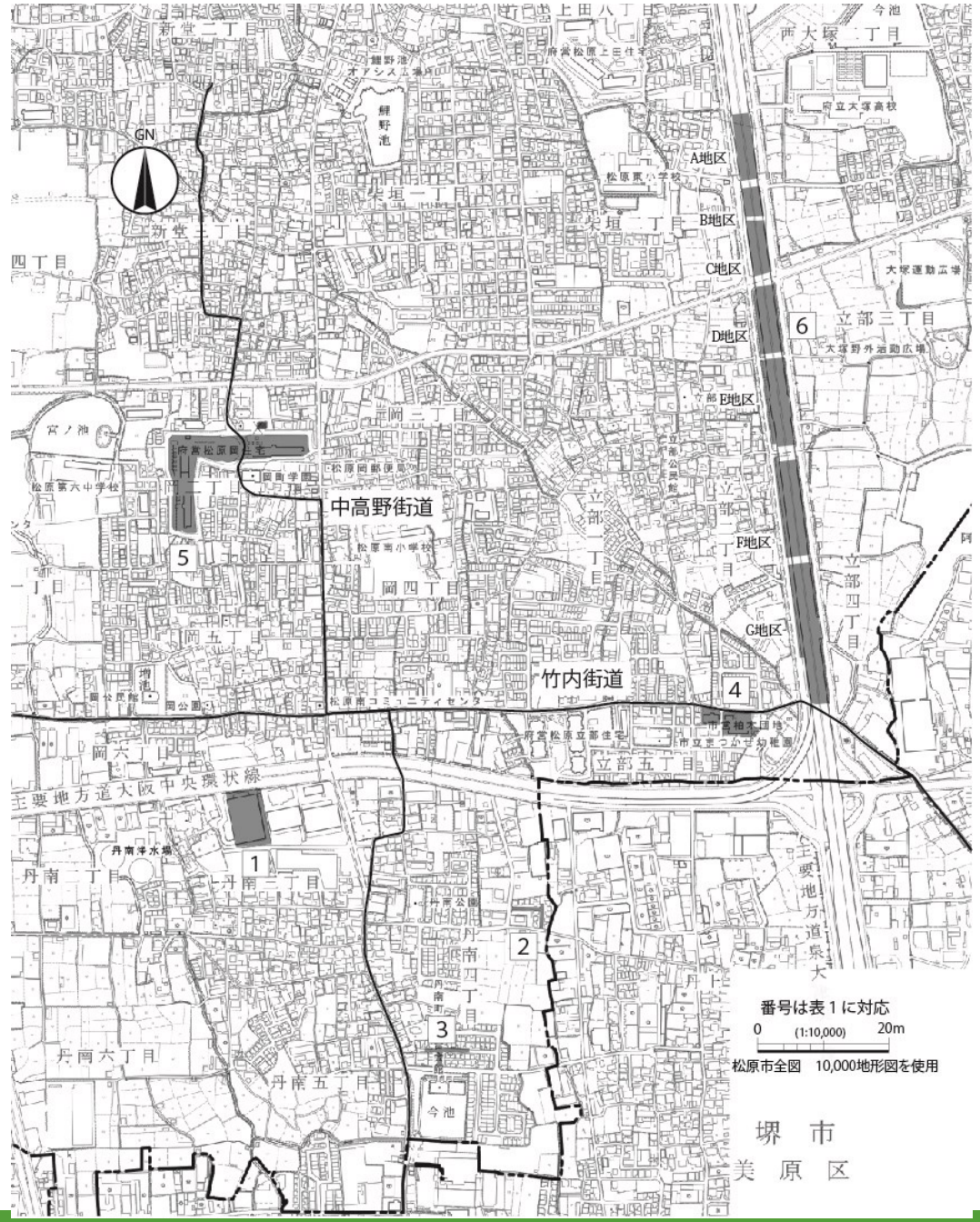
２．松原市域の
鋳造関連遺跡

・市域の南部～南東部に所在。

・台地上に所在し、街道にも近い。

・鋳造遺構は、岡遺跡１地点のみ。

　他は鋳造関連遺物が出土。



３．丹南遺跡（E8-3-24）
発掘調査概要

調 査 年：平成11年（1999）

調査原因：店舗建設工事

調査面積：１，８１２㎡

中心時期：13～14世紀、18～19世紀

・土坑S179から溶解炉ルが良好な状態で出土。

・井戸S113から鋳造関連遺物がまとまって出土。

調査区垂直写真

調査区全景

北西部全景　東から

南西部全景　北東から

13世紀中頃～後半の木棺墓S092
縦137cm×横76cm×深さ約60cm

全景　西から

瓦器椀・鎌近景　北から

土坑S179溶解炉ル出土状況

南から

土坑S179出土 溶解炉ル

内面

外面

土坑S179出土 溶解炉ル

内面

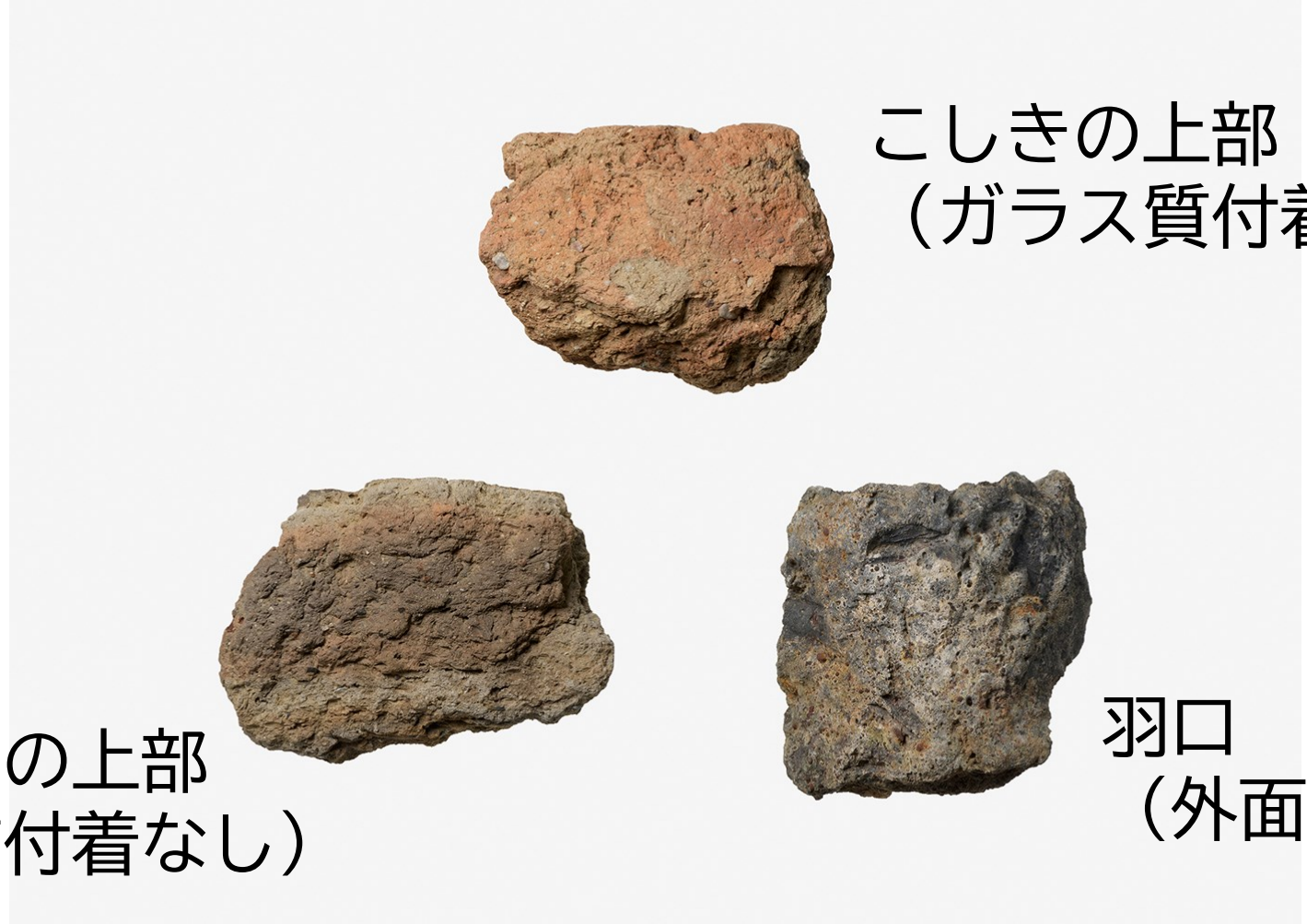
外面

井戸S113出土 炉壁

ル　上部　内面

ル　上部　外面

井戸S113出土 炉壁・羽口



こしきの上部
（ガラス質付着なし）

ルかこしきの上部
（ガラス質付着なし）

羽口
（外面にガラス質付着）

環状土製品

・井戸S113から破片にして、約60点出土。

・断面は丸いものと三角形の２種類。

・被熱痕跡は内側面に多いが、上面・下面にもある個体がある。ガラス質は付着しない。

半球状土製品

・井戸S113（３点）と落込S001－２（１点）から出土。

・ユビオサエ痕が目立つものがある。突起の突出度は個体差あり。

・被熱痕はあるが、ガラス質は付着しない。

土坑S158 炉壁出土状況（西から）

３．小結　丹南遺跡（E8-3-24）発掘調査概要

・鋳造遺構は未確認だが、残存状況が良好な溶解炉ル、井戸から炉壁・羽口など鋳造関連遺物がまとまって出土しており、付近で工房の存在が想定できる。

・調査区は、段丘端部に所在。南北大溝が西への傾斜変換点。同時期の遺構としては、大溝・墓・土坑。
→居住域ではない空間に廃棄している。

４．丹南遺跡　（E9-２-35）
発掘調査概要

調 査 年：平成18年（2006）

調査原因：宅地造成工事

調査面積：５４０㎡

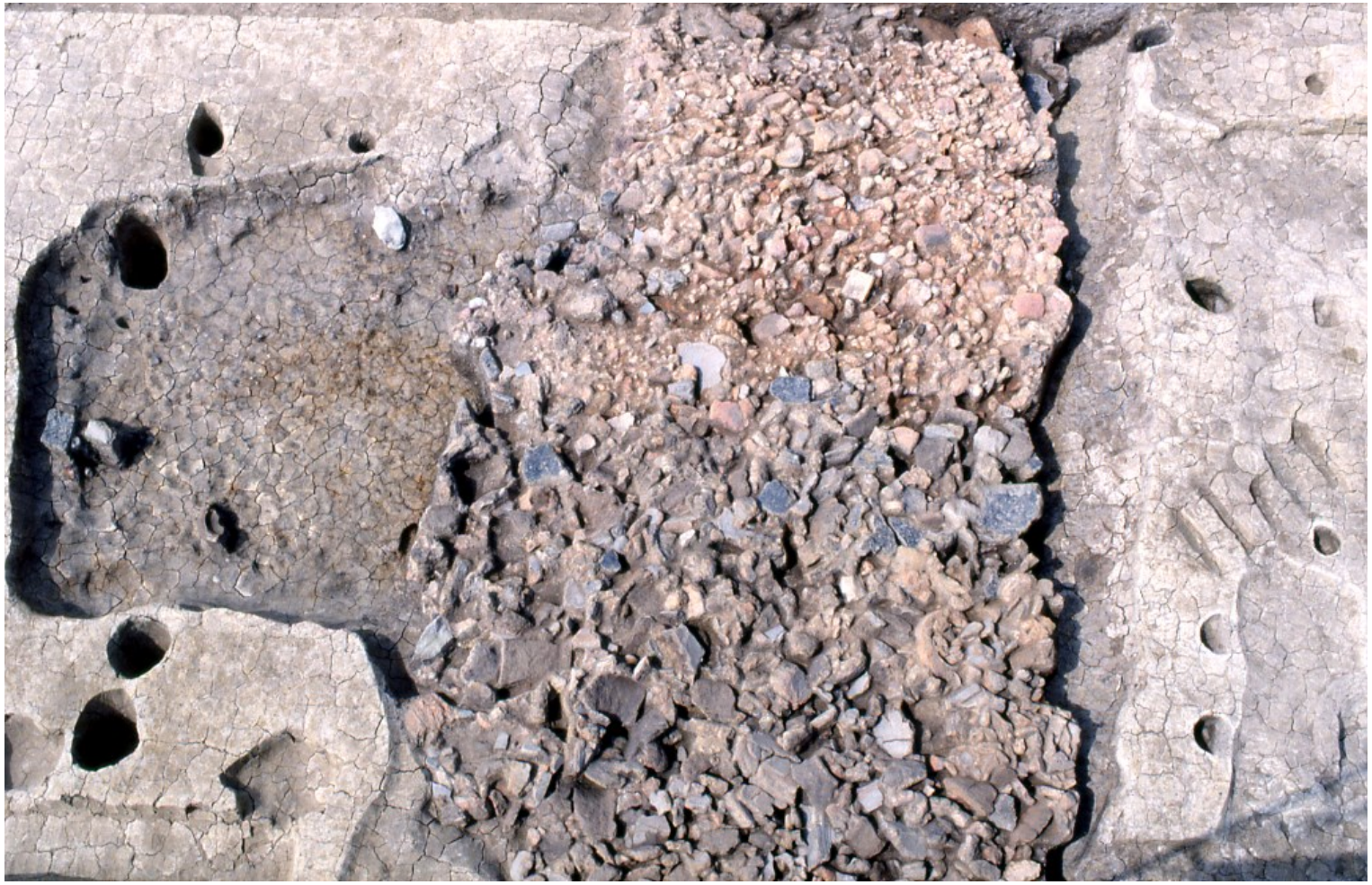
中心時期：13～15世紀代

・土坑S051より鋳造関連遺物が大量に出土した。

土坑S051
東から

土坑S051 掘削状況

土坑S051 鋳造関連遺物出土状況（南から）



土坑S051
鋳造関連遺物
出土状況（１）

土坑S051
鋳造関連遺物
出土状況（２）

土坑S051 断面

西断面　東から

南断面　北東から

土坑S051出土 溶解炉ル

内面

外面

土坑S051出土
溶解炉ル
出湯口近景（１）

・出湯口にガラス質は
　付着しない。

土坑S051出土
溶解炉ル
出湯口近景（２）

土坑S051出土 緑青が付着した炉壁

全景

緑青近景

土坑S051出土 羽釜鋳型

羽釜鋳型

再利用された鋳型

土坑S051出土 鍋鋳型

俯瞰

立面

土坑S051出土 鍋鋳型

俯瞰

立面

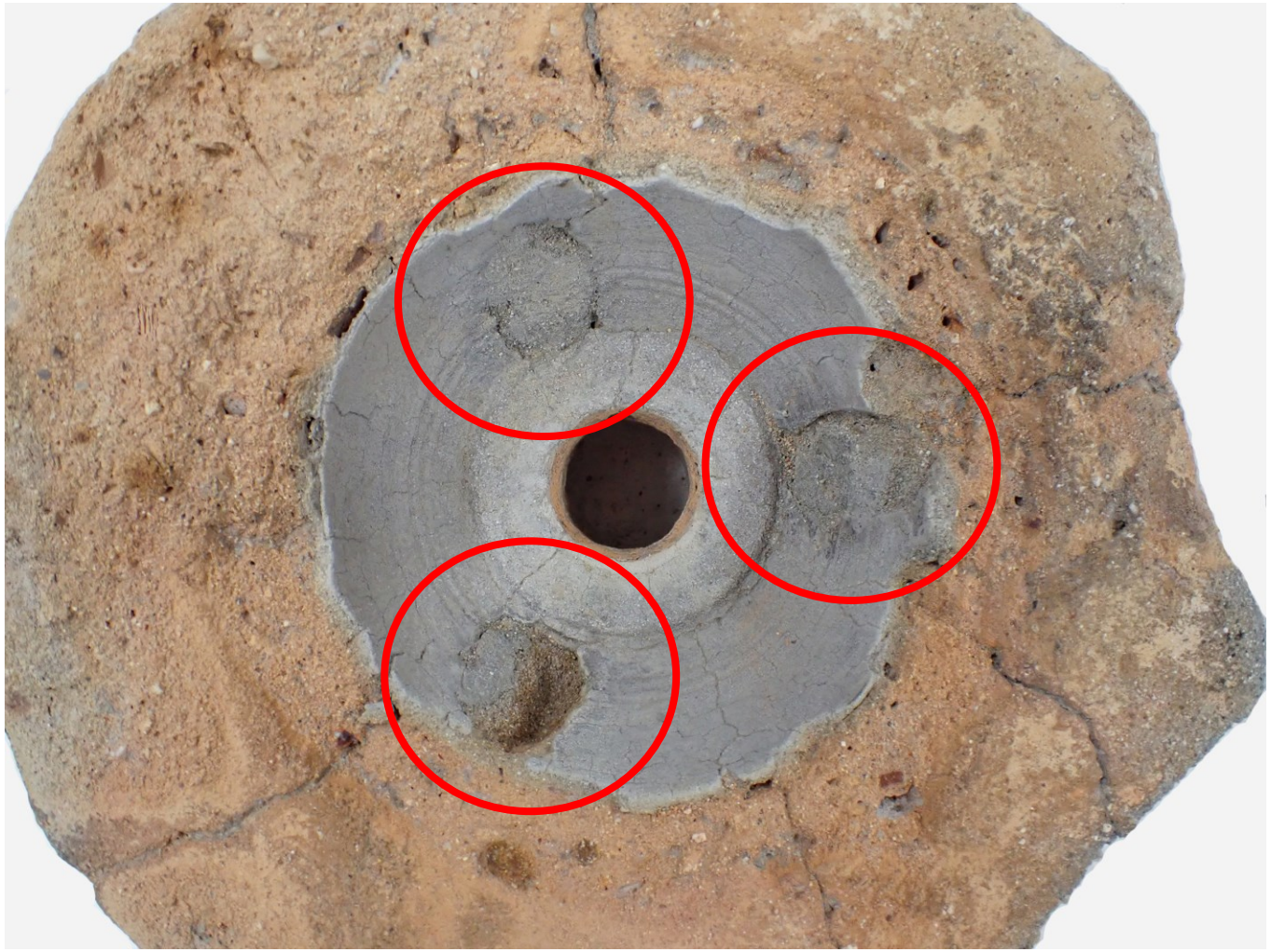
土坑S051出土　容器鋳型

内面

外面底部

土坑S051出土
容器鋳型
内面近景

・内面に押圧痕跡あり。



土坑S051出土　容器鋳型

立面

俯瞰

土坑S051出土 鋳型焼成用支脚

表面（被熱痕あり）

裏面（被熱痕なし）

土坑S051出土 砥石状土製品

被熱痕跡あり

溝S161出土　環状土製品・
土坑S051出土　半球状土製品

環状土製品

半球状土製品

土坑S051出土 用途不明品

外面

内面

土坑S051
用途不明品
出土状況

４.小結　丹南遺跡（E9-2-35）発掘調査概要

・出湯口をもつ溶解炉も出土しており、溶解炉構造を検討す資料となる。
・鉄鋳物だけではなく、銅鋳物も生産していた。
・鋳造関連遺構は未確認だが、土坑S051から大量の鋳造関連遺物が出土。近辺に工房の存在が考えられる。
・鋳型は、鍋・羽釜・容器など複数のものがあり、丹南遺跡で生産された製品の特定が期待できる。

５．立部遺跡（F8-３-５）発掘調査概要

調 査 年：平成５年（1993）

調査原因：市営住宅建替工事

調査面積：１，８００㎡

中心時期：11世紀、13世紀

粘土採掘土坑を検出。

炉壁・鋳型・鉄滓出土。

東から

粘土採掘土坑全景

南東から

南から

土坑S277出土溶解炉

遠景

近景

鋳型・鉄滓出土状況

土坑S907鋳型出土状況

土坑S578鉄滓出土状況

鉄滓出土状況

土坑S126

土坑S108

遺物出土状況

土坑S227

土坑S166

５.小結　立部遺跡（F8-３-５）発掘調査概要

・鋳造関連遺構は、粘土採掘土坑。
　鋳造関連遺物は、溶解炉・鋳型・鉄滓など。
・調査担当者の所見によると、検出遺構の中心は、11世紀代と13世紀代であり、河内鋳物師関係の鋳造関連遺跡としては、古い時期に属する。今後の整理作業を通じて、時期を明確にしたい。

６－１．まとめ１　鋳造関連遺跡の立地

（１）松原市域の鋳造関連遺跡の立地

・松原市域の鋳造関連遺跡は、羽曳野丘陵からのびる台地上に立地し、街道に近い場所に所在。

→鋳型の原材料となる粘土の採取地[宮川1985]、木炭や製品等の運搬に便利。

６－２．まとめ２　鋳造遺構と工房

（２）鋳造遺構

・松原市域で確認された鋳造遺構は、岡遺跡のみ。

・丹南遺跡・立部遺跡とも炉壁・鋳型等の鋳造関連遺物や粘土採掘土坑が出土しているため、周辺に工房の存在が想定できる。現在の調査成果からは、丹南遺跡・立部遺跡内の各１～２地点で、工房が存在したとみられる。

６－３．まとめ３　出土溶解炉と鋳型

（３）丹南遺跡の溶解炉

下部のルと胴部のこしきが出土したため、少なくとも２段構造以上の溶解炉が存在したと考えられる。

また、緑青色の物質が付着する炉壁もあり、銅生産の可能性をうかがうことができる。

（４）鋳型

現時点では、羽釜・鍋・容器を確認。

６－４．まとめ４　鋳造関連の用途不明品

（５）丹南遺跡から出土した半球状土製品

溶解炉に関わる道具である可能性[埼玉県埋蔵文化財調査事業団1994]。E8-３-24では溶解炉に関わる遺物が一括廃棄された井戸S113から出土し、矛盾しない。ただ、使用方法に関する新たな知見は得られていない。

（６）丹南遺跡から出土した環状土製品

現時点では類例がなく用途は不明。半球状土製品が出土した井戸S113から約60点出土。共伴遺物から溶解炉関連の道具？

６－５．まとめ５―今後の課題―

（１）溶解炉の形態や構造の検討。

（２）半球状土製品、環状土製品などの用途不明品の調査。

（３）生産された鋳造製品の種類と鋳造道具の把握。

引用・参考文献１

- 五十川伸矢　1992a　「鋳造工人の技術と生産工房」『中世都市と商人職人―考古学と中世史研究２―』名著出版　pp.147－168
- 五十川伸矢　1992b　「古代・中世の鋳鉄鋳物」『国立歴史民俗博物館研究報告』第46集　国立歴史民俗博物館　pp.1－79
- 五十川伸矢　1995　「丹南の鋳物師」『中世の風景を読む５　信仰と自由に生きる』新人物往来社　pp.281－306
- 大阪狭山市史編さん委員会　2014　『大阪狭山市史』 第一巻　大阪狭山市役所
- （財）大阪市文化財協会　2008　『苅田４丁目所在遺跡発掘調査報告』Ⅱ
- 大阪府教育委員会　1993　『岡２丁目所在遺跡発掘調査概要報告書』
- 大阪府教育委員会・（財）大阪文化財センター　1995　『日置荘遺跡』
- 大阪府教育委員会・（財）大阪府文化財調査研究センター　1997　『真福寺遺跡』（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書第19集
- 大阪府教育委員会　2002　『余部遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告2001－２
- 大阪府教育委員会　2003　『余部遺跡』Ⅱ　大阪府埋蔵文化財調査報告2002－１
- 大阪府教育委員会　2008　『余部日置荘遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告2007－６
- （財）大阪府文化財調査研究センター　1996　『余部遺跡』（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書第11集
- （財）大阪府文化財調査研究センター　1998　『観音寺遺跡』（財）大阪府文化財調査研究センター調査報告書第34集

引用・参考文献２

- 小田木富慈美　2019　「大阪市内の遺構・遺物からみた河内鋳物師とその系譜」『シンポジウム　河内鋳物師の実像に迫る（資料集）』大阪市立大学　pp.37－58
- 日下雅義　1980　『歴史時代の地形環境』古今書院
- 倉吉市教育委員会　1986　『倉吉の鋳物師』
- （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1994　『金井遺跡B区』
- 鋤柄俊夫　1993　「中世丹南における職能民の集落遺跡」『国立歴史民俗博物館研究報告』第48集　国立歴史民俗博物館　pp.161－239
- 西田昌弘　2020　「漆町遺跡（金屋地区）における溶解炉構造の復元」『鋳造遺跡研究会三〇周年記念論集＜鋳造遺跡研究資料2020＞』鋳造遺跡研究会　pp.63－72
- 美原町史編纂委員会　1999　『美原町史』第一巻　美原町
- 宮川満　1985　「第一章　中世前期の丹比地方　３　丹南の鋳物師」『松原市史』第一巻　松原市役所　pp.226－232